

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530040		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハーモニ一猪苗代 認知症対応型共同生活介護 1丁目		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町字城南131番地1		
自己評価作成日	2021年12月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様が居場所や役割を持って日常生活が楽しく、満足して頂けるように、一人一人の思いや、願いを大切にし、お客様の個性を尊重しながら、自立支援に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年1月20日		

1.自立支援を理念に掲げ、利用者が出来る範囲で食事作りや食器洗い、季節の山菜取り、菜園での農作業、モップかけ等を行い、これまで培ってきた力を発揮しながら生きがいを持って生活できるよう支援している。
 2.毎月、身体拘束廃止委員会を開催するとともに、年2回法人が実施する不適切ケア・アンケートを実施し、明らかになった課題改善について話し合っている。また、研修で、身体拘束・虐待防止などについて研修を行い、法人全体で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。
 3.献立は法人栄養士が作成し、チルド食に菜園での収穫物や近所からの野菜の差し入れ等を活用している、利用者は、野菜の下処理や盛り付け、食器拭きなど出来る範囲で活躍している。また、コロナ禍で外食自粛のため、職員による焼き芋や回転寿司、行事食を工夫しながら、食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念は事業所内に掲示し、申し送りの時間に唱和する時間を設け職員間で共有し実践をしている。	理念は、年度末に職員アンケートを行い、会議で話し合いをして見直しをしている。また、玄関と事務室に掲示し、毎日の申し送り時に唱和し、共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域や地区の行事に可能な限り参加している。地域の方々が事業所に来訪し、交流できるように回覧板等で掲示している。	コロナ禍前は、気軽に子供が立ち寄り宿題をしたり、町内会の清掃活動参加や除夜の鐘、初市へ出かけていた。現在は、感染対策を講じながら地域との交流に努め、コロナ禍で発表の場を無くした中学校の合唱部に事業所で歌ってもらい、中学生・利用者に好評を得た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催しに参加し認知症に対するの理解や支援方法の説明会や相談会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回の予定だったがコロナ禍の為開催はできていなかったが、利用者の利用状況、入退去、入院、事故報告や行事や日常生活の写真を委員会の方々に書類を送付で対応していた。	コロナ禍のため、委員へ定期的に事業所の状況を書面で報告している。報告書は郵送或いは持参し、委員から電話や用務等の訪問時に意見を頂きサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1回以上は役場に訪問し行事の案内や、運営上の相談などを行えている。	役場担当者とは、広報誌や運営推進会議報告書を直接出向いて届ける他にサービスの取組等について相談する等、協力関係を築く取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に勉強会を行っている。法人内での不適切ケアのアンケートを行い集計を職員会議で共有し身体拘束に繋がらないよう対応している。	毎月身体拘束廃止委員会を開催し、指針・手引きを整備し、身体拘束・虐待防止・権利擁護等の研修会を行っている。また、年2回法人内の不適切ケアについてのアンケートを実施し、結果を活用し課題について身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止関係法の勉強会を法人内で行っている。利用者、家族と関わる中で虐待の危険の早期発見に努め関係機関との連携をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が必要な制度が活用できるように家族や面会の祭、説明をし関係機関に橋渡しを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解除の際不安や疑問がないか確認しながら進めている。報酬や加算、料金改定の変更があった際は説明を書面にて送付し不安や疑問があった際は個別で対応させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に話す機会作りやアンケートを実施し意見や要望を反映し運営推進会議や広報を通し外部へ伝えている。	日々の関わりの中から利用者から丁寧に思いを聞くよう努めている。家族からは、面会や電話連絡時の他、年1回の家族アンケートで意見・要望を聞き、結果を職員会議で話し合い、家族や地域へも情報を開示し、頂いた意見・要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にキャリアコンサルトの来訪や本部役員との面談も日程調整をし意見を述べる事ができている。	職員からは、毎月の職員会議や日々の会話等で自由に意見を出してもらっている。また、法人から月2回のキャリアコンサルト訪問や役員面談があり、意見・提案を聞く機会を多く設けている。出された意見等は運営に反映させ、働きやすい環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持ち向上心がもてるように職員1人ひとりが目標が達成できるように環境や整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で各研修があり参加できている。外部研修へ参加しやすい環境作りをしている。OJT支援については定期的に面談を行ってフォローを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町独自のネットワークに加入しており、定期的に勉強会や意見交換会に参加し、学ぶ機会作りサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや不安、表情を見ながら話を聞き、話しやすく安心できる雰囲気や関係作りをし、職員間で情報共有しご本人の満足いくサービスを提案し安心が確保できるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の体験や要望、困りごとを聞きコミュニケーションを取り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査や関係機関から引継ぎの際、ご本人、家族のニーズを把握し気持ちや要望を受け止め必要な支援を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人ひとりの個性や何ができるか知り、できること行って頂き、ご本人の力を発揮しながら共に支えていく関係を保てるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その人らしさを大切にする為に、ご本人・家族・職員で情報を共有し共に支えていく関係が保てるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会、電話があった際は居室等でゆっくり話して頂き、以前に参加していた地域の行事や買い物に出かけ関係が途切れないように努めている。	地域の会津三十三観音巡り、廃線になっている鉄道の駅舎見物等へ出かけていたが、積雪も有り現在は写真で懐かしんでいる。また、感染対策をして、友人・知人の訪問を受入れたり地域内の買い物に出かける等、人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で馴染みの関係ができれば丁目関係なく自由に過ごして頂き、レクリエーションの際、多く関わりが持てるように座って頂いている。孤立しがちの利用者の方には少人数のレクや個別での対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談がしやすいように行事の案内を送付したり、会った際には経過を確認させて頂き関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	多職種連携でご本人との関わりの中で希望、意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、ご家族に協力を得ながら本人本位のサービスが提供できるように取り組んでいる。	入居時のアセスメントや日々の関わりの中から思いや希望の把握に努めている。また、困難な場合は、職員間で話し合い、家族の意見を参考に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に本人、家族、各関係機関から情報収集し1人1人にあった暮らしが送れるように支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意見や状態変化、心身状態を連絡ノートを活用したり、申し送りじやGHミーティングの祭に職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、状態変化時にアセスメントやモニタリングを行い利用者が行いたいことを職員で共有し、意見を取り入れ介護計画を作成している。	入居時、町の介護認定調査結果及びアセスメントにより、本人・家族の希望に沿った介護計画3カ月分を作成し、3カ月を目途に見直しをしている。ケース会議及びモニタリングを行い、家族同席(現在は電話確認)でケース担当者会議を開き、介護計画を作成している。緊急時には、現状に即して見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に1日の様子を記入している。実践、結果、気づきがわかるように工夫しながら介護記録を記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに臨機応変に対応して思い出の場所に出かけたり、昔の職場や家族の職場を見学に出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と一緒に地域資源の場へ外出をし、暮らしを楽しんで頂けるように努めている。書類送付へ郵便局へ出かけたり、ご近所へ回覧板をおきにでかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に継続して、受診して頂いている。新たに受診が必要になった際は、本人 家族と相談しながら病院を決めている。	かかりつけ医を継続受診し、通院は家族対応としているが、状況により職員が同行支援をしている。随時訪問診療や訪問歯科があり、適切な医療体制が確保されている。診療情報シートや電話報告により受診情報が共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきは看護師に速やかに報告し、看護師は状態確認後かかりつけ医に連絡し医師より指示を受け必要ならば受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護、看護サマリーの提供を行い、医療機関と連携をしている。退院計画の話合いがスムーズに行えるように定期的に病院へ連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の診断後、本人 家族の思いを主治医や職員で対応方針を決定し、十分に説明しチーム支援に取り組んでいる。	契約時、事業所の「重度化した場合の看取り指針」を説明し同意を得ている。看取り対応については、医師・家族・事業所が話し合い、家族の意向を確認しながら方針を共有し、支援を行っている。看取りケア実施後には振り返りを行っている。また、法人で看取りに関する研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生、応急手当は施設内でマニュアルを活用し勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て色々な場面を想定した避難訓練や災害時の対応をマニュアルを活用したり、消防署や行政職員と共に行っている。	感染症・自然災害等の発生を想定した業務継続計画(BCP)を策定し、これらを意識した訓練を実施している。また、地域特有の噴火・雪害等災害に対する訓練も実施している。コロナ禍で地域の方の訓練参加は自粛しているが、協力体制は構築している。非常災害時に水・米・パン・缶詰・スープなど3日間分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損なわない対応をしていないか職員へ年2回アンケートを実施し、集計後職員会議で報告し尊重とプライバシーの確保に努めている。	法人の職場のルール「言葉づかい7項目」を研修で周知徹底し、利用者の尊厳と自尊心を損なわない言葉かけに取り組んでいる。また、職員アンケートを実施し、日常サービスの中で、誇りやプライバシーを損なわないケアを実践しているか、確認しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員と多職種連携で1対1でリラックスできる場でコミュニケーションをとり、本人の思いや希望が話せるように努め、職員で情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分に合わせて、本人希望に沿った支援を行っている。食事の時間変更や入浴は入りたいときに入浴して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限りご自分で整えて頂けるようにし、手直しや支援が必要な際は本人は声掛け、確認しながら行っている。衣類は見て選んで頂くだけではなく着て頂き納得のいく服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	漬物や野菜切り、盛り付けや調理は一緒に行っている。行事メニューなど取り入れ、四季を感じて頂いている。職員も同じメニューで同じ時間で楽しく食事をして頂けるように努めている。	献立は法人栄養士が作成し、チルド食に菜園での収穫物や近所からの野菜の差し入れ等を活用している。利用者は、野菜の下処理や盛り付け、食器拭きなど出来る範囲で活躍している。また、コロナ禍で外食自粛中のため、職員による焼き芋や回転寿司、行事食を工夫しながら、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士からメニュー表が届きバランスのとれた食事を提供している。食事、水分量を1人1人確認できるように記録に残し申し送りにて情報共有し健康管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1週間に2回程訪問歯科診療にきて頂き、1人ひとりにあった口腔ケアのしかたを指導を受け実践しており清潔保持に努めている。変化があった際は歯科医へ報告し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを知るために、記録に残しその方にあった下着交換やトイレ誘導を行い、排尿、排便のサインを見落とさないように情報共有しトイレにご案内している。	利用者の排泄記録や日常生活での表情や行動などから、排泄パターンを把握し、職員間で情報を共有しながら、自立排泄に向けた支援を行っている。排泄の自立支援を通して、オムツ等経費の削減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の時間に腹部マッサージを取り入れたり、個別で施設内を歩いて頂いている。食事やおやつに乳製品の提供をし水分の管理をし下剤を使用しない排便促進に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定はあるが、本人の希望に沿った入浴を実施しており、夜間浴や羞恥心のある方には個室で入浴して頂いている。季節の入浴や音楽をかけゆっくり入浴して頂いている。	入浴は週2回、午前中を基本としているが、希望に沿って夜間入浴もでき、ゆず湯や入浴剤を利用し、音楽を流しながら、ゆっくり入浴していただけるよう支援している。入浴を好まない方には、言葉掛けのタイミングや対応職員を代える等工夫している。また、全浴槽づくりとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっていない為、テレビや本を読んだり、飲酒をされたりと、ご自分のペースで休んで頂いており、ご家族の協力を得て使い慣れた寝具を持ってきて頂き気持ちよく休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の処方箋はいつでも確認できるようにしている。内服薬の変更や追加は申し送りや、連絡ノートで情報共有している。それぞれにあった服薬解介助を行っているが、飲み込みや口腔内に残薬がないかは統一して必ず確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑作りなど、それぞれが行える役割を行って頂いている。嗜好品についても量を確認させて頂きながら召し上がっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会津三十三観音巡りがしたいと話があり33観音で写真撮影をしてきた。ご本人が行きたい場所へ家族の協力の元できる限り外出して頂いており、必要ならば職員も同行させて頂いている。	コロナ禍の中で、感染対策をしながら、日用品の買い物や地域の紅葉の名勝地へ出かけている。また、事業所前が高校駅伝コースなので応援の他、事前に走路の草むしりを行った。日常的に散歩や菜園での野菜作りなど、出来るだけ戸外に出よう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理や事務所預かり、施設立て替えていつでも使えるようにしており、支払の際は職員付き添いにて本人の手からお金を支払うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際や職員から声掛けしていつでも電話をして頂いている。荷物を送って頂いた家族へご本人から手紙を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快がないように環境整備を行っている。行事等の写真や利用者で作成した手芸品を掲示している。ご家族から頂いた花などを飾り季節を感じて頂いている。	ホールの壁面には、行事・会津三十三観音巡りの写真、新年を感じる干支の共同作品が飾ってある。また、職員が暖房と空気清浄機、加湿器等管理を行い、快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではラウンジでパーテーションを使用し、独りで過ごしたり、少人数で過ごせるスペース作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家族の協力を得て自宅で使用していた物を持ってきて頂いたり、ご本人の過ごしやすい家具の配置や自宅に近い環境作りを行っている。	居室には、馴染みのタンスやテレビ、テーブルを持ち込み、家族写真を飾りながら、その人らしく落ち着いて過ごせるよう配慮している。また、携帯電話を持参し、家族との会話を楽しんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており各所に手すりが設置してあり、障害物や危険な所がないよう環境整備をしている。安全、安心な生活が送れるように本人にあった福祉用具も使用して頂いている。		